

“すこしの知識とすこしの意識で、未来は変えることができるはず” (須藤文音)

震災を忘れない集い

19年目のメモリアル。子ども向けに地震の本をまとめた3人を招いて、1.17 阪神・淡路大震災、3.11 東日本大震災、南海トラフ巨大地震を考えます。

2014年 **1/19** (日) 開場:午後1時、開演:午後1時半～4時
小田公民館ホール (JR 尼崎駅。北へ5分)、無料、先着200名、記録上映も。

『地震のはなしを聞きに行く ～父はなぜ死んだのか』

挨拶 稲村和美 尼崎市長

須藤 文音さん (津波で父を失った本の著者。宮城県気仙沼生まれ。介護福祉士)
下河原幸恵さん (本のイラストレーター。須藤さんの友人。岩手県紫波郡生まれ)
土方 正志さん (本の編集者。仙台の出版社「荒蝦夷(あらえみし)」代表)
中村 大蔵さん (東日本大震災復興支援尼崎ネットワーク代表、阪神共同福祉会理事長、園田苑前施設長)



写真左が須藤さん

須藤文音さん(25歳)は、宮城県気仙沼港で船の整備士をしていた父・須藤勉さん(当時54歳)を津波で失いました。失意の中、地震や防災の専門家、尼崎・西宮・神戸の被災地を訪れ、なぜ津波は生まれたのか、被害を少なくするにはどうしたらいいのかを調べ、その内容を一冊の本にまとめました。ぜひお読みください。

偕成社 1,470円 監修:松澤暢、寒川旭、河田恵昭

共催 園田苑、東日本大震災復興支援尼崎ネットワーク、NPO法人わ・輪・Wa 尼崎
後援 兵庫県阪神南県民局、尼崎市、尼崎市社会福祉協議会、兵庫県LSA連絡会
助成 ひょうご震災記念21世紀研究機構、ひょうご安全の日推進県民会議

主催 地域を結ぶ笑顔の会

FAX 06 - 6495 - 3539 メール awaumi22@wi.kualnet.jp 080 - 6165 - 0990 粟野

「地震とは」子供に伝える本…仙台の介護福祉士

(2013年2月22日 読売新聞、宮城)

津波で父親を亡くした仙台市宮城野区の介護福祉士・須藤文音さん(25)が、地震の仕組みなどを分かりやすく解説した子供向けの本「地震のはなしを聞きに行く」(偕成社)を出版した。

サブタイトルの「父はなぜ死んだのか」との問いを原動力に、かつて震災を経験した全国の被災地を訪ねたり、専門家にインタビューしたりして書き上げた力作だ。21日から全国の書店で発売されている。

第1章で、東北大学附属地震・噴火予知研究観測センターの松沢暢教授から聞いた地震の話をかみ砕いて解説。日本列島は「4枚のプレートがぶつかり合って移動する上」にあるため「地震国」と呼ばれていることや、プレートがずれて海底が動くことで発生する津波の仕組みを記している。理解を助けるため、友人のイラストレーター下河原幸恵さん(32)が描いたイラストもたくさん用いている。

須藤さんの父勉さん(当時54歳)は、宮城県の気仙沼港近くで津波に襲われた。15日後に見つかった遺体の手には、須藤さんが妹とプレゼントしたキーホルダーが握られていた。津波の映像資料を見るたびに、「父を思い出して涙が止まらなかった」といい、執筆にはつらさも伴った。それでも下河原さんと約1年をかけ、阪神大震災(1995年)の淡路島など全国の被災地を巡り、松沢教授ら3人の専門家にインタビューした。

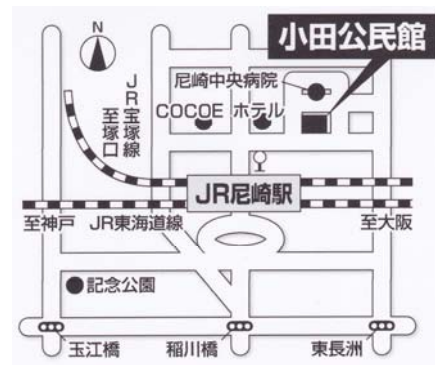
須藤さんは「地震への少しの知識と少しの意識で、未来を変えられることを知ってほしい」と話している。1,470円。



震災を忘れない集い

1月19日 1時半~4時
小田公民館 (JR 尼崎駅)
無料、先着200人。
ボランティアも募集!

3月には、第10回
笑顔ふれあい祭りも!



活動支援募金のお願い

須藤さん、下河原さん、土方さんをまねくために!
『地震のはなしを聞きに行く』を多くの学校に贈るために!
尼崎の震災復興住宅支援、地域づくり活動のために!

人の縁を結ぶためのご縁募金、一口500円、2000口募集!

郵便振替口座 00910-9-322462 災害支援基金

現金書留・切手送付 〒661-0953 尼崎市東園田町6-50-14 地域を結ぶ笑顔の会

メール awaumi22@wi.kualnet.jp 080-6165-0990 代表 栗野真造

.....送付先 FAX 06-6495-3539.....

参加申込書

2014. 1. 19 「震災を忘れない集い」

★当日参加も可 (先着200名)

氏名

住所 〒

所属

メッセージ